

利用案内

開館時間 / 9:00 ~ 16:30
遺跡部分は 24 時間オープン

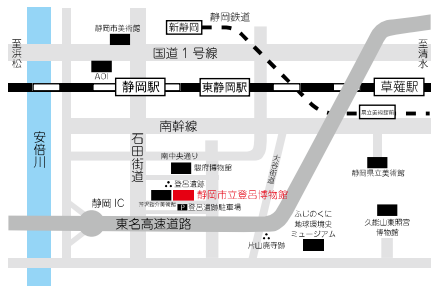
休館日 / 月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）、
祝日の翌日、年末年始

観覧料 / 2 階展示室は有料

区分	個人	団体	回数	共通	共通団体
一般	300	220	1,380	570	460
高校生 大学生	200	150	920	360	280
小学生 中学生	50	40	230	120	90

特別展開催期は特別料金。
常設展と特別展・企画展観覧券は共通のもの。
団体は 30 名以上の団体。
回数券は 5 回分。
共通券は隣接の芹沢銈介美術館との共通券。
共通券は芹沢銈介美術館開館時にお取売。
静岡市内在住の 70 歳以上の方、小中学生（通学含む）、未就学児無料。
障害者手帳等の提示により、本人及び同伴者 1 名様は無料。

* 消費税率の変更に伴い、2019 年 10 月 1 日から観覧料が変更になる可能性があります。
詳しくはお問い合わせください。



《バス》JR 静岡駅南口から約 10 分
しずてつジャストライン「登呂遺跡」行きバス終点下車
《クルマ》東名静岡 IC から約 10 分 遺跡南側に有料駐車場有

静岡市立登呂博物館

〒422-8033 ☎054-285-0476
静岡県静岡市駿河区登呂五丁目10番5号
http://www.shizuoka-toromuseum.jp/



日本考古学の金字塔

特別史跡 登呂遺跡

登呂遺跡は、約2000年前の弥生時代後期の集落跡。第二次世界大戦中の昭和18年(1943年)に軍需工場建設の際に発見されました。

先人たちの尽力により、短期間ながらも調査が行われました。学界の注目度は高く、また、弥生時代の水田跡の遺構が確認されたのは日本で初めてのことでした。

戦後、昭和22年(1947年)から昭和25年(1950年)にかけて本格的な発掘調査が行われました。大量の土器・木製品などの出土品に加えて、住居跡・倉庫跡などの居住域と水田域が一体となって確認され、「弥生時代といえば水田稲作」というイメージが定着する契機となる調査でした。また、この調査をきっかけに日本考古学協会が発足、戦後の日本考古学の出発点としても記念すべき遺跡です。

昭和27年(1952年)に国の特別史跡に指定され、その後、史跡公園としての整備が進められました。平成11年(1999年)から平成15年(2003年)にかけて再発掘調査が行われ、大型の掘立柱建物(祭殿)や集落を区画する溝、水田の小区画の存在など、多くの新発見がありました。現在は「弥生時代にタイムスリップ」を合言葉に、遺跡全体を弥生時代の姿に近づけ、当時の生活体験も楽しむことができる歴史公園として整備、公開されています。

参加体験ミュージアム！

静岡市立登呂博物館

国の宝である登呂遺跡。その価値と意義をはるか先の未来まで伝えていくための博物館です。

2階の常設展示室では、2016年8月に国の重要文化財に指定された出土品775点のうち、約200点を含む400点の資料を展示し、遺跡の概要や調査の歴史をわかりやすく説明しています。

1階の弥生体験展示室では、再現された道具を使って、当時の生活を疑似体験することができます。1階と屋上はすべて無料スペース。誰もが気軽に立ち寄ることができる、開かれた博物館です。



登呂遺跡・登呂博物館のあゆみ

- 1943 昭和18年7月11日
「登呂遺跡発見」の新聞報道
8月 第1次発掘調査実施
- 1947 昭和22-25年
第2-5次発掘調査
(昭和23年 日本考古学協会設立)
- 1950 昭和26年
3月 第1号復元住居の建設
- 1951 昭和27年11月22日
国の特別史跡に指定(11,600㎡)
4月 第1号高床倉庫の建設
- 1955 昭和30年3月20日
静岡考古館 開館
(登呂博物館の前身)
- 1965 昭和40年
東名高速道路建設に伴う第6次発掘調査
遺跡の保護活動が活発化
- 1971 昭和46年
静岡考古館 閉館
- 1972 昭和47年4月1日
静岡市立登呂博物館 開館(旧博物館)
- 1977 昭和52年
水田跡を復元
- 1978 昭和53年12月21日
特別史跡追加指定(48,300㎡)
- 1994 平成6年
静岡市立登呂博物館 1階改修 参加体験ミュージアム化
- 1999 平成11-15年
登呂遺跡 再発掘調査
- 2003 平成16年2月27日
登呂遺跡出土品699点
静岡県指定文化財に指定
- 2006 平成18-23年
登呂遺跡 再整備工事
- 2007 平成19年
静岡市立登呂博物館 閉館
- 2010 平成22年10月3日
静岡市立登呂博物館 リニューアルオープン
- 2011
- 2016 平成28年8月17日
登呂遺跡出土品775点 重要文化財指定



発見当時の登呂遺跡



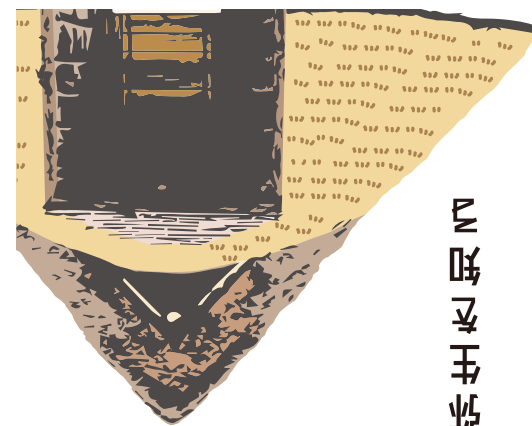
戦後の発掘調査の様子



第6次発掘調査の様子

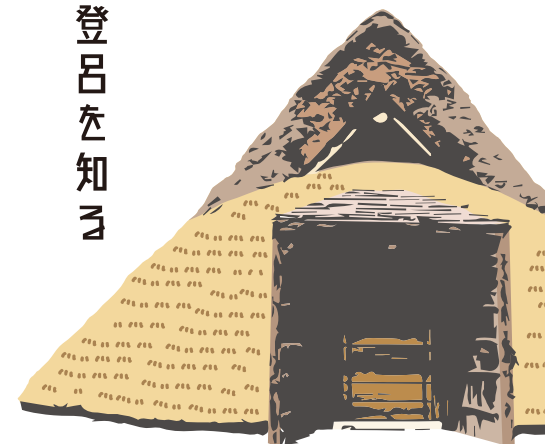


再発掘調査地点空撮



登呂遺跡

登呂を知る



静岡市立登呂博物館
特別史跡 登呂遺跡

弥生の暮らしを知る、学ぶ 登呂博物館

弥生人の暮らしを知り、 体験するミュージアム。

博物館の1階は参加・体験型展示、2階は重要文化財に指定された出土品などの実物資料が常時展示されており、登呂遺跡についてより深く知り、学ぶことができます。

※1階と屋上は無料スペース、2階は観覧券のご提示が必要になります。



弥生体験展示室



当館の大きな特徴の一つ、「体験学習」を主軸にした展示室。住居、高床倉庫、祭殿、水田が展示室内に再現されており、気分は弥生時代へタイムスリップ。



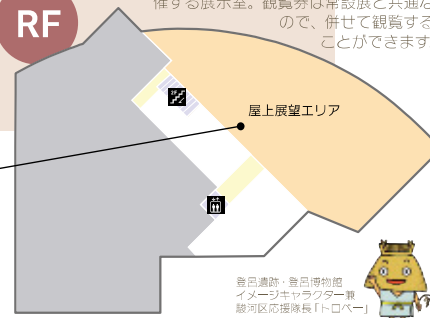
体験指導員とボランティアスタッフが丁寧に体験方法を指導します。

その他

1階にはそのほか、考古学関係図書をそろえる「図書コーナー」や観光情報などを紹介する「情報・映像コーナー」、講演会などに使用する「登呂交流ホール」があります。



屋上からは富士山を一望！



登呂遺跡・登呂博物館
イメージキャラクター「トローバー」
総務課 広報係長「トローバー」

常設展示室



「登呂ムラ」の生活を紹介する出土品が並び展示室です。また、日本考古学史に輝く登呂遺跡発掘の歴史を発掘に関わった人々へのインタビューや、発掘当時の新聞記事などを通して体感することができます。



登呂遺跡のジオラマや、クイズ、映像などメディアと組み合わせた直観的でわかりやすい展示を楽しめます。

特別・企画展示室



さまざまなテーマの特別展・企画展を開催する展示室。観覧券は常設展と共通なので、併せて観覧することができます。

弥生の風景を見る、歩く 登呂遺跡

* 歌人、佐佐木信綱が戦後の発掘調査中の登呂を訪れて、登呂ムラの人たちの暮らしを想像して詠んだ歌の一つ。「若い男女が集って歌い踊り、気に入った相手に求婚の歌謡を掛け合う。歌声に次いで涼の音が遠くから聞こえる。」これら詠句の歌はのちに歌集「山と水と」の中で「登呂知潮」と題してまとめられました。

住居



周囲に土手(周堤)を築き、堅穴住居と同じ構造をつくり出した住居は登呂遺跡独特のつくり方です。住居の外回りには排水用の溝(周溝)が巡ります。

高床倉庫



稲を長期間保管し、湿気を防ぐために床を持ち上げた構造をしています。小動物による食害を防ぐための「ネズミ返し」が特徴的です。柱の数により、規模が異なっています。

メモリアル広場



登呂遺跡では全国に先駆けて遺跡整備が行われました。昭和26年(1951年)の東京大学関野克教授の設計による復元住居をはじめとするその整備手法は全国の手本となりました。

弥生の稲作農耕集落が広がる歴史公園。



弥生時代後期(約2,000年前)、この地域には、西側に流れる安倍川の支流によって形成された微高地上に多くの集落がつけられました。そのうちの一つが登呂遺跡です。北側が居住域、南側が水田域となっていました。集落は4つの時期をへて変遷し、その間に2回の洪水に襲われました。現在復元されているのは1回目の洪水前の最盛期の集落の姿です。

住居などの建物跡



住居がなくなり、周囲に巡らされた周堤や周溝のみが残っている状態が示されています。

祭殿



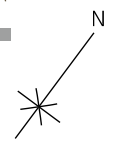
両側の棟持柱が特徴の大型の掘立柱建物で西側の広場に面しています。広場南側の池からは土骨などの祭祀具が出土しました。特別な空間だったと考えられています。

復元水田



太い畦で大きく区画された中を細い手畦で小さく区画されています。1回目の洪水の後に、大区画の畦や水路は杭と矢板で補強されました。

とろとろめ 安倍をとこらが 歌垣の
うた聲にまどる 遠く汐さめ*
佐佐木信綱



博物館営業日は毎日、2号高床倉庫付近で火起こし体験を、土曜日・日曜日・祝日には復元した土器で炊飯した赤米の試食体験を無料で楽しむことができます。



東名高速道路 体験サポート施設